

平成27年度 第2回学校関係者評価委員会 議事録

日時：平成28年2月24日（水）15：30～16：30

場所：会議室

出席者：評価委員6名

学校関係者15名

進行：副校長

1 開会のことば（副校長）

2 校長挨拶（校長）

インフルエンザの影響はさほどない。3年生も元気で受験に向かっている。SGHに指定されてから課題研究に挑戦し、研究発表などを中心に取り組んでいる。3月にはSGH事業の一環で米国ボストンへ生徒10名を派遣する予定である。

陸上部や登山部で全国優勝や上位入賞、文化部も書道部を中心に活躍している。

進学については本人が望む進路達成に向けて指導するように先生方にはお願いしている。

不登校になっている生徒もいる。学校としてはチームを組んで対応し、生徒一人ひとりに寄り添う指導を心がけている。進路変更する生徒もいるが、長い人生の中で自己実現を図れるように生徒に向かい合いたい。

委員の皆様からは忌憚のないご意見を頂戴できればと思う。

3 自己紹介（省略）

4 学校概況報告

（1）学校概況について（副校長）

学校経営計画の実施状況説明。SGHについては順調に推移している。学校経営の目標達成に関して、分かる授業の実現のため、互観授業やアンケート調査などを実施している。授業への満足度は概して高い評価である。今後アクティブラーニングの実施や観点別評価が導入される予定であり、アンケートの調査項目の変更が必要であり、実態に即した項目に変更していきたい。今年度はスクールカウンセラーにも問題を抱えた生徒たちの教育相談情報交換会に参加してもらっている。

（2）学習に関すること（教務主任）

今後の改善方策を中心に説明する。観点別評価が高校にも導入される。そこで、観点別の評価をするために、年間の学習指導計画をより緻密なものにしていく。評価方法が変化するのは、様々な観点から授業改善に結びつけるものであり、これまでの授業が大きく変化するというものではない。生徒による授業評価を年2回実施し、授業改善に役立てている。

（3）生徒指導に関すること（生徒指導主事）

大きな事故もなく推移した落ち着いた1年であった。部活動での活躍が目立った1年であった。生徒のアンケートから、学校についての生徒の評価が高くなってきていることが分かる。生徒の自己肯定感も向上している。

(4) 進路指導に関すること（進路指導主事）

資料にない部分を補足する。今年度は、生徒の自主性を重んじる指導を心がけた。課外授業の選択制などがそれである。また、生徒との面談回数を増やしている。例年、私立大学を滑り止めとして数校受験する生徒がいるが、今年度は私大受験数が大幅に減少した。進学する意思のない私大受験を担任が薦めなかったことによる。例年500～600校への出願があったが今年度は384校であった。東大への出願も例年になく多かった。

(5) 健康安全指導に関すること（厚生課主任・教育相談課主任・総務課主任）

様々な機会をとらえて健康安全教育講座を開催している。年間38回のカウンセリング（カウンセラー2名）を行っているが、生徒だけでなく保護者にも多数利用してもらっている。教育相談では情報交換会を年4回実施している。不登校の生徒たちが抱えているものとその問題の程度が個々で異なっているので、一人ひとりの生徒と面談をし、外部の医療機関を利用するケースも増えてきた。総務が担当している安全講習は救急救命講座や避難訓練を実施している。また、非常時にそなえた備蓄をしている。避難訓練の実施については多様なケースを想定して実施していきたい。

(6) S G Hに関すること（S G H推進課主任）

1年生は総合の時間や情報の時間を使って課題研究を実施している。2年生普通科の生徒は6つのテーマのもと、課題研究を進めた。来年度は、3年生が課題研究の内容を英語で発表できるようにする予定である。外部講師によるS G H関連の講演会は5回実施している。また、青森高校での英語によるS G H発表会の見学する等、外部での発表会へ参加する機会が複数回あった。

(7) 各学年の状況

○ 1学年（1学年主任）

現在1学年は282名である。本日から特別時間割になり、次年度を見据えて理科や社会の科目内容を紹介するような授業展開が始まっている。一高生であれば、勉強は当たり前であり、それにプラスαの活動を意識させてきた。例えば、生徒会や学校外の活動などを勧めてきた。ノブレス・オブリージュの意識を啓発してきた。上位学年から情報提供を受けて実施したり、独自に企画したりした新しい行事もある。先ほど学年集会を開催し、自ら行動することの大切さを訴えた。3月は授業が確保しにくい課題の月である。その3月から来年度の運動会終了の5月までの過ごし方を自覚させたい。

○ 2学年（2学年主任）

基本的な生活習慣の確立を中心に据え、S G Hの探究活動がしっかりできるように指導してきた。普段の学習活動では見ることができないような活発な探究活動をする生徒が複数見られ、改めてこの課題研究の意義を確認している。ゴールを設定してそれに向けてどのような手立てを講ずるべきか、この課題研究の活動を通じて確認させることができたのではないかと考えている。

○ 3学年（3学年主任）

現在、明日からの国公立二次試験に生徒は向かっている。3月2日の卒業式には全員がそろって卒業できそうであり、学年長としては何よりうれしいことである。今後ともご支援を頂戴したい。

5 質疑応答

○ A委員

(1) 一高では授業以外に先生方に外部から何か要請がある場合があると思うがどれくらいの件数があるのか。

(校長) それほど多くはないが、あることはある。

(2) S G Hに関して、在学中に留学する生徒はいるのか。

(2 学年主任) これまでもいるし、今後予定のある生徒もいる。1年の留学となると3年生を2回することになる。

(3 学年主任) 現3年生にはそのようにして留学した生徒が4名いる。

(3) 別件で医療従事者のアンケートを読む機会があった。その数字はちょっと信じられないところもあったが、今回の学校評価アンケート結果には生徒がきちんと答えているのか。

(副校長) 副校長が実施する授業アンケートにはシビアな結果になっているものもある。

○ B委員

授業の雰囲気がよくなっていると学校評価アンケート結果から分かる。生徒は何が変わったと感じているのだろうか。中学校での参考としたい。

(教務主任) 観点別評価との関連でアクティブラーニングに力を入れている。授業が活性化されていると思われる。ただし、それだけが理由ではないと思われる。

○ C委員

(1) アクティブラーニングへの取り組みを教えてください。

(教務主任) 従来的一方通行の授業ではなくて、生徒同士の活動やグループによる発信を意識した授業を行っている。

(2) 他教科の場合はどうなのか。

(校長) アクティブラーニングというのは言語活動の充実が重要であり、英語に限らず他教科でも実践できる。授業を見学してみると数学などでも解法について意見交換をさせていたりする。

6 各委員からのコメント

○ A委員

一高の生徒たちの現役進学率はどのようなものか。

(進路指導主事) 70%ほどである。

○ B委員

登山女子の優勝メンバーに自分が教えた生徒が入っている。彼女たちは主体的に活動している生徒であった。そうした資質を持った生徒たちが一高で鍛えられていることを知ってうれしい。中学校では問題を抱えた生徒が多くなっている。生徒のたくましさということを学校・地域・保護者と連携して育む必要性を感じている。携帯電話の問題への対応にも苦慮している。

○ C委員

(1) 学校設定目標値の見直しについて。項目のうち1ヶ所、授業のわかりやすさの目標値が90%であるが100%にすべきではないか。

(校長) 目標設定は県の指標に合わせている。授業で90%以上の理解度を目指し、残りの10%は授

業以外の指導（個別指導・質問・課外等）で補強するという考え方である。学習内容がわかる生徒については併せて100%を目指すのが当然であると考えている。

(2) 課題の量について。課題の量について生徒自身はどう思っているのかもっと聞いてみてもいいのではないかと。「浩然の気」でも課題についての記述が少なかった。

○ D委員

保護者としての感想だが、入学した子供の成績があまり振るわないのを目にし、辛いだらうなと感じている。頑張っていることのでうれしい思いをしている。今日の説明で、成績不振であったり、問題を抱えていたりする生徒に対する学校の手厚い対応に感謝する。コース選択では子供がこんなに悩んでいるとは思わなかった。部活動で先輩が相談に乗ってくれていたと知ってありがたく思った。上位者の伸長と同時に、下位の生徒もよろしくお願ひしたい。

○ E委員

インターハイの活躍が女子中心になっているように思われる。男子も活躍できるようにお願ひしたい。アンケート結果は高評価であるが、やや低いところは今後の課題であろう。

(校長) 女子が目立っているが、水泳等、男子も頑張っている。

○ F委員

学校での取り組みがよくわかって勉強になった。適切な目標を設定してそれを達成してほしい。よろしくお願ひする。

○ G委員（本人欠席のためメッセージを菅原副校長が代読）

「学校評価報告書を拝見し、年々着実な成果を積み重ねて来られているものと確信、これも偏に平賀校長先生はじめ諸先生方のご尽力に拠るものと、心より感謝と敬意を表します。任期の最終年度ながら、本日は、所用につき、出席致しかねましたことから、以下所見を提出いたしますので、今後ともよろしくお願ひいたします。」

(1) 教育をめぐる争点は学力向上だけではなく、学力と同時に人間性、社会性を鍛える必要があるところ。本校には多彩かつ多様な生徒が集まり、それぞれの個性を生かし、能力を発見、伸ばし、切磋琢磨してよいものを創造していくことができる風土があり、これを活かすことこそが、生徒の人間性と社会性をはぐくむこととなるもの。その意味で「教育目標」は、正鵠を得ており、共感できるものであり、今後ともその実現に向け多様な戦略を積極的に駆使されることをお願ひしたい。

(2) 「学校目標設定値」の達成状況は極めて評価すべきこと。しかし、現行の設定水準が妥当かどうか、更なる高みが必要ではないか、さらにはほかの項目設定を加えるかなど、常に見直す必要があるのではないかと考える。

(3) 望ましい勤労観や職業観を早い段階から確立することは、進路目標の明確化にもつながり、意欲喚起にもつながる。キャリア教育の意義はまさにそこにあり、そのため、豊富な人材からなる同窓生を活用していることは評価すべきことで、今後とも継続されることをお願ひしたい。

7 閉会のことば（副校長）